

科目名	<p style="text-align: center;">芸術科</p> <p style="text-align: center;">科目：音楽 1</p>	使用教材	教科書 MOUSA① 教育芸術社 副教材	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 持参するもの 筆記用具 ファイル ピック </div>
単位数	1年次 2単位選択必修 スーパー（通年） ベーシック（通年）	評価方法	実技テスト 授業への取り組みの様子（参加の仕方・忘れ物など） 提出物（プリント・ノートなど）	

学習到達目標

- 1 音や音楽に対する興味・関心を高め、音楽を愛好する。
- 2 音楽の構成要素と表現要素を理解し、感性を高める。
- 3 自己のイメージを表現するための技能を身につけ、創造的な表現ができるようになる。
- 4 音楽を主体的に理解し、創造的に鑑賞する能力を身につける。

★授業について

授業では大きく分けて2つの領域に取り組みます。

① 鑑賞

教科書の内容だけでなく、クラシックから世界の民族音楽・ポピュラーミュージック・日本の伝統芸能まで様々な演奏を鑑賞します。毎回プリントを配布しますので要点を書き込んで、楽曲に関する知識を憶えるとともに、感想を書くことで、楽曲の良さや美しさを理解し味わう能力を身につけることが大切です。

② 表現

表現は作曲家の意思や楽曲の意味を感じ取り、自分自身に置き換えて考え表現することが重要です。

表現は歌唱・器楽・創作の3つの方法で取り組みます。歌唱・器楽ではグループで取り組むことが多いので、自分の考えをメンバーに伝える自己表現力と互いの意見を受け入れ、より良い演奏を作ろうとする協調性を持つことが大切です。音楽活動自体が自分を表現する活動です。積極的に活動しましょう。

★自主学习について

●演奏を聴こう！

音楽を学ぶ上で大切なことは、良い作品・演奏を数多く聴くことです。TV放送やCDなどで聴くのも良いですが、生の演奏会で演奏者から直に伝わってくる音楽を肌で感じる事ができれば一番良いでしょう。ただ耳に入ってくる音を聞くのではなく、作曲家や演奏者の意図を理解しようとする姿勢で聴くことが大切です。

◎予習

授業で取り組む楽曲で使われている楽語・記号の意味を調べておくこと。わからない楽語・記号があれば、教科書の楽語・記号集のページで調べておきましょう。

◎復習

授業中に使用した音楽用語や音楽独特の言い回しなどを正しく理解し、暗記しましょう。

★評価について

○評価の対象

- ① 実技テスト ②授業の様子 ③提出物

○評価の観点

- ①音や音楽に興味・関心を持ち、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。(関心・意欲・態度)
- ②感性を働かせ、音楽の諸要素を理解し、音楽の良さを感じ取り、創造的な音楽表現ができているか。(芸術的な感受や表現の工夫)
- ③自己のイメージを持ち、創造的な表現をするための技能を身につけているか。(創造的な表現の工夫)
- ④音楽を主体的に理解し、そのよさや美しさを創造的に味わえているか。(鑑賞能力)

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4月		<ul style="list-style-type: none"> 授業の決まりの定着 歌唱（国歌・校歌） 器楽（ギター・リコーダー） 校歌発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み方を理解する。 楽譜を読み、歌詞及び曲想を把握し歌う。 TAB譜に応じた奏法を理解し演奏する。（単旋律・簡単なコード） 自分自身の活動と他クラスの活動を鑑賞・比較し客観的にこれまでの活動を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 校歌の歌詞・リズム・音程・音量 ◆学習の姿勢の決まりの定着 ◆聞き方、話し方の確認 ◆正しい楽器の扱い方の定着 *楽曲に込められた思いを感じ、自身の思いを持ち、表現する。 *仲間と協力しより良い音楽表現を、目指すことができる。*協調性を磨く。
5月		<ul style="list-style-type: none"> リズムアンサンブル 歌唱（風になりたい） 器楽（ギター・リコーダー） 音楽映画の鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> リズム譜の読み方を理解し、正確なリズムを演奏する。 楽譜を読み、歌詞及び曲想を把握し歌う。 ラテンのリズムに乗って歌う。 作曲家の生涯を知り、作品の意図と作られた時代背景を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●視唱・視奏力の伸長 ●合唱における表現の工夫 ●歌詞及び曲想を把握し表現する。 ●ジャンルのリズムを感得する。●作曲家の人格、時代背景、作品の意図 ◆仲間と意見交換が出来、建設的なグループ練習ができる。 *仲間と出会えたことの察知らしさ、出会いの大切さについて考える。
6月		<ul style="list-style-type: none"> ギター発表会 器楽（リコーダー） 合唱 音楽映画の鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の活動と他クラスの活動を鑑賞・比較し客観的にこれまでの活動を見直す 楽譜を読み、歌詞及び曲想を把握し歌う。または演奏する。 ハーモニーの美しさを感じる。強弱を付ける。 作曲家の生涯を知り、作品の意図と作られた時代背景を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●視唱・視奏力の伸長 ●合唱における表現の工夫 ●歌詞及び曲想を把握し表現する。 ●楽器の体験と奏法の工夫◆興味を持った演習こつて話合えることが出来る。 ◆中心となる生が実現し、リーダーシップを発揮し建設的なグループ練習ができる。 *音楽は一人でできない。人との繋がり大切さについて考え始める。
7月		<ul style="list-style-type: none"> リコーダー発表会 器楽（ギター） 西洋音楽の鑑賞 合唱 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の活動と他クラスの活動を鑑賞・比較し客観的にこれまでの活動を見直す。 楽譜を読み、歌詞及び曲想を把握し歌う。または演奏する。 ハーモニーの美しさを感じる。プレスの位置を工夫する。 作曲家の生涯を知り、作品の意図と作られた時代背景を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●視唱・視奏力の伸長 ●合唱における表現の工夫 ●歌詞及び曲想を把握し表現する。 ●楽器の体験と奏法の工夫◆興味を持った演習こつて話合えることが出来る。 ◆発表を本番としてとらえ、本番に向けて集中し、活動を高める意識を持つ。 *仲間の演奏から、学び取るうとする姿がみられる。
9月 10月		<ul style="list-style-type: none"> 器楽（ギター弾き語り） 創作（名曲に歌詞を付けよう）（ラップ）（和声） 世界の民族音楽の鑑賞 合唱発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の持つリズム、韻と音楽の結びつきについて理解し、創造的な活動をする。 多様な民族音楽の特徴を理解する。・和音の仕組みを理解する。 和音の連続によって得られる曲想の変化について理解する。 ハーモニーの美しさを感じる。音符、歌詞に合った発音。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域独自の文化、音楽の特徴 ●異なるリズムの組み合わせによって生まれる表現上の効果 ●即興的表現 ●和音の種類と連打できる組み合わせの種類 ◆音楽的なイメージの話し合いがグループ内で出来る。 *仲間との一体感、共に歌い追求する喜びを感じることが出来る。
11月		<ul style="list-style-type: none"> 器楽（ギター弾き語り） 斉唱（ジャンルの違い） 日本伝統芸能の鑑賞 和楽器アンサンブル 	<ul style="list-style-type: none"> コードチェンジの・習得コードとメロディーの調和を感じる。 様々なジャンルの唱法を区別し、歌う。・和楽器の奏法を理解する。 日本の文化や伝統芸能の世界を理解する。・日本の楽器こつて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ジャンル別の唱法の違い ●日本伝統芸能の種類・奏法理解 ●使われる楽器の種類・奏法理解 ◆グループで話し合い、練習計画を立てられる。 *恥を捨て、全身で自身の思いを表現出来る。
12月 ～ 3月		<ul style="list-style-type: none"> 器楽合奏 和楽器アンサンブル発表会 ギター弾き語り発表会 オペラ、バレエ鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 使用する楽器の音、合奏形態、曲意などを創作科で行う。 総合芸術の素晴らしさを感じ取る。・舞台に携わる様々な仕事を知る。 オペラ、バレエの歴史こつて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●色々な音楽素材を生かした即興的表現 ●オペラ、バレエの歴史、社会的な位置 ◆創造的なアイデアを発言し合え、一つの発表に結びつけられる。 *発表する仲間に対して敬意を持って聴き、努力をたたえる拍手が送れる。 *大勢の前で、自分の思いを表現できる。緊張感を楽しめる。

科目名	書道 I	使用教材	教科書「書 I」光村図書 副教材
単位数	1年次：2単位必修 スーパーコース ベーシックコース	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「関心・意欲・態度」 ・ 「芸術的な感受や表現の工夫」 ・ 「創造的な表現の技能」 ・ 「鑑賞能力」

学習到達目標

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばします。

- 1、中学校国語科書写と高等学校芸術科書道との接続を図り、書道の基礎となる書写能力を高めます。
- 2、書道の幅広い活動を通して、書に興味・関心を持ち、感性を豊かにし、ひいては生涯にわたって書を愛好する心情を育てます。
- 3、「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「細字の書」の各分野で書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばします。

★授業について

小・中学校国語科書写の学習を踏まえながら、書の表現・鑑賞など幅広い学習を展開。実技のスタート時点では、書の基本である姿勢や執筆法、用具・用材の扱い方、更には基本的な筆使いを扱う。また、生徒にとってなじみ深い楷書の学習から「多様な書之美」を理解し、それを生かす力を培うことで「意図に基づく表現」の幅を広げていく。

★自主学習について

- ◎予習 鑑賞活動の一環として、日常生活における「書」の存在確認。(新聞・雑誌・テレビ・看板など)身の回りに存在している「書」をあげてゆく。
- ◎復習 自分が授業で習った書が生活の中で果たしている役割を知り、書の効用を理解してゆく。

★評価について

評価の対象 ①書を通じて、生活に即した書表現に関心を持ち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとする姿勢。・基本的な用具・用材に関する知識や扱い方を理解しようとする姿勢。「関心・意欲・態度」

②感性を働かせて書の良さや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する姿勢。用具・用材によって線質や表現が変わる事を理解し、表現を工夫する姿勢。「芸術的な感受や表現工夫」

③書写能力を高め、用具用材を生かし、実用的な表現や芸術的な表現の基本的な技能を身につけている。創造的な芸術表現をするために、用具・用材と表現効果が密接に関係していることを理解している。「創造的な表現の技能」

評価の観点 ①「関心・意欲・態度」②「芸術的な感受や表現の工夫」③「創造的な表現の技能」④「鑑賞能力」

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週時	単元	目 標	学習の要点
4	4	はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ・書道Ⅰで学習する分野やそれぞれの表現の特徴を知る。 ・古典の臨書や鑑賞によって、創造性豊かな表現が生まれる事を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 用具の使用目的 ◆用材の機能と特性を理解し、効果的に使用する定着が見られる。 *用具の大きさに目を向ける
5	8	1、書写から書道へ 2、姿勢と執筆法に注意しよう 3、用具・用材を選択しよう 4、書の表現方法を学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を書くときの姿勢や筆の持ち方を理解し、目的に応じていくつかの方法があることを知る。 ・筆・墨・硯・紙などの用具・用材の特性を知る。 ・用具、用材による表現の違いを知る。 ・用筆・運筆について知る。 ・書体や書風、構成などの違いを知る。 ・漢字の書体とその特徴を理解。 	<ul style="list-style-type: none"> ●多種多様の用具の活用によって作品が変化することを学び応用する事が出来る。 ◆用材の機能と特性を理解し、効果的に使用する定着が見られる。 *用具の大きさに目を向ける
6	8	2、楷書の臨書と鑑賞 九成宮禮泉銘 孔子廟堂碑、 雁塔聖教序	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ楷書でも用筆や字形に違いがあることを知る。 ・拓本やその製作について知る。 ・用筆法と字形を理解し臨書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●楷書の基本点画の用筆、運筆。 ◆臨書・鑑賞（九成宮禮泉銘） ●楷書について、用筆法と字形 ◆臨書・鑑賞（孔子廟堂碑、雁塔聖教序など）
7	4	3、七夕展長半紙作品	<ul style="list-style-type: none"> ・長半紙の四文字作品、大筆を使用し楷書の創作作品として仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> *古典作品の見方、感じ方によって創作作品に結び付けられることが出来る。
9	8	4、行書の用筆・運筆法、字形	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書と行書との相違、行書の特徴について理解する。 ・行書の用筆、運筆法字形のとり方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日頃の成果を校外展覧会にて、評価する絶好の機会（特別賞、金賞、銀賞など） ●臨書・鑑賞◆蘭亭序、風信帖 *古典作品の見方、感じ方によって創作作品に結び付けられることが出来る。
10	8	5、生活の中の書（細字） 「白鹿洞書院創作」	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の校訓でもある白鹿洞書院を創作し、小筆の用筆法を知る。 ・用筆・運筆について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●半切二分の一の用紙に仕上げる事が出来る。
11	8		<ul style="list-style-type: none"> ・街中にある書を見つけ、表現効果について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆練習作品・清書作品 ◆軸装に仕上げ来年度校内展示鑑賞による創造発展する事が出来る。
12	4	6、書初め展長半紙作品	<ul style="list-style-type: none"> ・長半紙の四文字作品、大筆を使用し楷書の創作作品として仕上げる。 	
1	8	7、生活の中の書（刻字） 表札作品	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中に生かされている、毛筆の書について鑑賞し理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日頃の成果を校外展覧会にて、評価する絶好の機会（特別賞、金賞、銀賞など）
2	8		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活の中の毛筆書きの物の理解。（表札） ・木に書く難しさ、構成レイアウト、用筆・運筆について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活に生かされている書といっても、これまでに学習してきたことと、かけ離れたものではない。（自宅で使用できるように自分の名前を作品にする・名字だけでも可能）
3	2		<ul style="list-style-type: none"> ・木に自分の名前を書き込むバランス、字の大きさレイアウトの大切さを理解する。 ・彫刻刀を使用し掘り込む作業の理解。 ・彫刻刀の使用角度、深さなど方法、扱い方の理解。 ・仕上がりイメージし刻すことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●枠の中にバランスよく名前を記入。 *怪我の無いよう安全策に注意することが出来る 彫刻刀の使用、刃の研ぎ方を習得する事が出来る。＊紙やすりで磨き上げポスターカラーにて字枠を塗ることが出来る。